

日本の不平等——格差社会の幻想と未来

大竹文雄著 (日本経済新聞社・3360円)

バブル崩壊後のキーワードは、例えば格差と不平等。「一人勝ち」とか「勝ち組・負け組」といった言い回しも、あっという間に拡がった。ときには、情緒や気分のレベルで議論されることもある。この本の特徴はといえば、徹底的にデータを読み込んで、格差と不平等を客観的に論じるといふスタイル。

高齢化とは、それまでの人生の積分。

分値として種々の格差が拡がっていくということ。そうした高齢世代が人口全体の中で増えれば、経済全体の格差が拡がるのは、ある意味で当然の帰結。そのことを逐一検証し、消費格差、賃金格差、さらには一時点での格差ではない生涯所得の格差にまで切り込む。決して読み易いとはいえない本だけれど、手心えは十分。(達)